

## 小児形成外科分野指導医認定委員会

委員長：金子 剛

担当理事：横田 和典

委員：朝戸 裕貴、稲川 喜一、今井 啓介、今井 啓道、木村 得尚、  
小林 眞司、田中 克己、土佐 泰祥、野口 昌彦、朴 修三

開催年月日：①2017年4月13日（大阪）、②2017年10月20日（大阪）

③ 2017年11月11日（東京）④2018年2月10日（尼崎）

＊その他適宜メール委員会

活動の内容：1. 2017年度小児形成外科分野指導医認定審査

本年は制度開始初年度であった為、暫定措置として資格を満たす申請者に対しては筆記試験免除や書類提出の一部免除などが設けられた。

① 申請受付期間 2017年9月15日～10月31日

本年の認定審査の新規申請者は11名、暫定措置対象者としての申請は417名の合計428名であった。

② 書類審査会 2017年11月11日

書類審査会にて申請書類の確認を行い、新規申請者5名、暫定申請者50名を書類再提出とした。その後再審査を経て、新規申請者1名、暫定申請者2名を不合格とした。

③ 筆記試験 2018年2月10日

第23回日本形成外科手術手技学会会場（都ホテルニューアルカイック（尼崎市））にて行われた。

新規申請者10名が欠席者無く筆記試験を受験した。合格基準を満たし全員合格となった。

以上より本年度合格者は、暫定415名、新規10名、計425名となった。

その結果を理事会に報告した。

2. 2018年度小児形成外科分野指導医認定審査

第2回認定審査の予定は以下の通り。

①申請受付期間 2018年9月15日～10月31日（予定）

②筆記試験 2019年2月23日（予定）

第24回日本形成外科手術手技学会会場（横浜）。

③会告（申請の手引き）は2017年度試験の際のQ&A等の内容を加味して4月の学会誌に掲載する。

3. その他の協議事項

①教育セミナーについて

当面の間は単独では行わず、総会や基礎学術集会中に行われる領域講習やシンポジウムなどを小児形成外科分野指導医教育セミナーに認定する方針とした。

61 回総会時については、以下の 3 件を小児形成外科分野指導医教育セミナーとして認めていただくことを会長へ依頼することとした。

i) 4 月 12 日 (木) 招待講演 3

「Advances in Craniofacial Surgery for the Correction of Congenital Anomalies : From Bench Research to Current Practice」

ii) 4 月 11 日 (水) シンポジウム 1

「先天性眼瞼下垂の閉瞼・閉瞼機能と整容のリカバリー」

iii) 4 月 13 日 (金) パネルディスカッション 7

「小児症耳介再建術後のトラブルまたは不満足な結果に対するリカバリー」

## ②研修施設について

当面の間は日本形成外科学会認定施設・教育関連施設を研修施設とする。小児麻酔をかけられる施設はある程度大きな病院であり、暫定期度下で小児総合医療施設に準ずる施設と認定した病院もすべて認定施設あるいは教育関連施設であったことから、不都合はないと考えられた。ただし、将来的には新しい専門医制度下では認定施設や教育関連施設が無くなるのが考えられるため、今後も検討を続ける。

## ③試験実施時期及び書類提出時期の検討

現在は手術手技学会中に試験を行うことになっているが、次々年度からは基礎学術集会中に行う。また、そのための予定についても併せて確認された。

## ④細則及び施行細則の変更についての確認

細則については、専門医申請と同様に細則上に審査結果に対する不服申し立て期間を追記することが検討された。細則は評議員会の決議を必要とするため、2019 年度の評議員会にて承認を得られるよう次年度の課題とした。

施行細則については、第 3 章第 9 条の 2 項に記載のある申請資格について、現在「日本形成外科学会学術集会における」となっているが、これを「日本形成外科学会学術集会（総会および基礎学術集会）における」とし、明確化させることとした。理事会の承認の後に変更する。

## ⑤更新の基準について

素案は既に委員会で確認しているが、細部を更に検討したうえで時期を見て公示を行う。

## ⑥小児形成外科分野指導医の英語表記について

英文の CV 等に記載できるようにするため、小児形成外科分野指導医の正式な英語表記を検討する。